



【展示概要】

期間 令和7年8月25日(月)～令和7年10月30日(木)

日時 月曜日～金曜日(祝休日、年末年始を除く)

午前9時～午後5時

会場 滋賀県立公文書館(県庁新館3階)

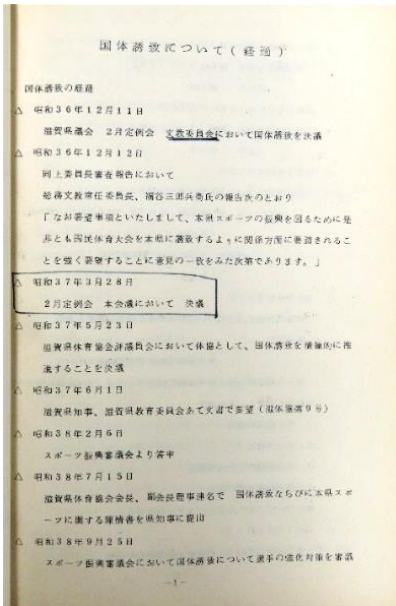
内容 特定歴史公文書等および県刊行物20点(複製含む。)ほか、写真パネル、ゆかりの品など

今年、国民スポーツ大会(国スポ)・全国障害者スポーツ大会(障スポ)が滋賀県で開催されます。本県での開催は、昭和56年(1981年)以来44年ぶり、2度目となります。そこで当館では、国スポ・障スポの開催を記念して、昭和56年大会を振り返る展示を行います。

昭和56年の「びわこ国体」は、約15年におよぶ誘致活動の末、4度目の申請でようやく開催に至りました。この悲願の国体を成功させるため、本県では県、市町村、県民の総力をあげて準備にあたりました。好天のなか開催された競技の結果は、びわこ国体では総合優勝、びわこ大会(第17回全国身体障害者スポーツ大会)でも金メダル獲得数1位を果たしています。競技結果だけでなく、琵琶湖を活かした湖上の炬火(きょか)リレー、琵琶湖をモチーフにしたシンボルマーク、滋賀の郷土料理を取り入れた参加者宿泊施設の食事メニュー、湖国ならではの会場間の湖上輸送など、滋賀らしさが随所に見られ、内容豊かな実りある国体として好評を博しました。

本展示では、このような当時の様子を伝える文書や写真、ゆかりの品を御紹介します。

第 1 章 国体誘致の動き

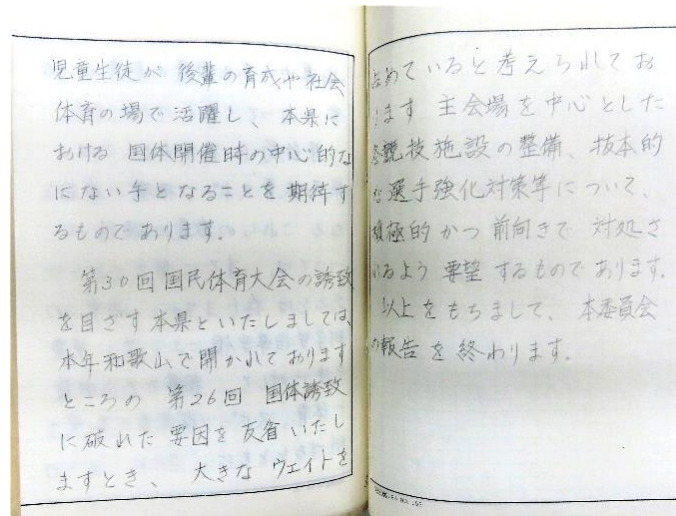


1-1「国体誘致について（経過）」

昭和 42 年（1967 年）

本県への国体誘致は、昭和 36 年 12 月 11 日の県議会 2 月定例会文教委員会における決議によりはじまりました。その後、本会議においても決議し、同年 5 月には県体育協会においても国体誘致を積極的に推進することを決議しました。昭和 40 年 4 月 27 日には知事を会長とする国民体育大会誘致委員会を発足し、国体テーマの公募をはじめ会場予定地の選定など、昭和 46 年国体誘致運動を展開しました。しかし、昭和 46 年の開催地は和歌山県となり、努力もむなしく「滋賀国体」は実現しませんでした。

【令 3-3918（1）】

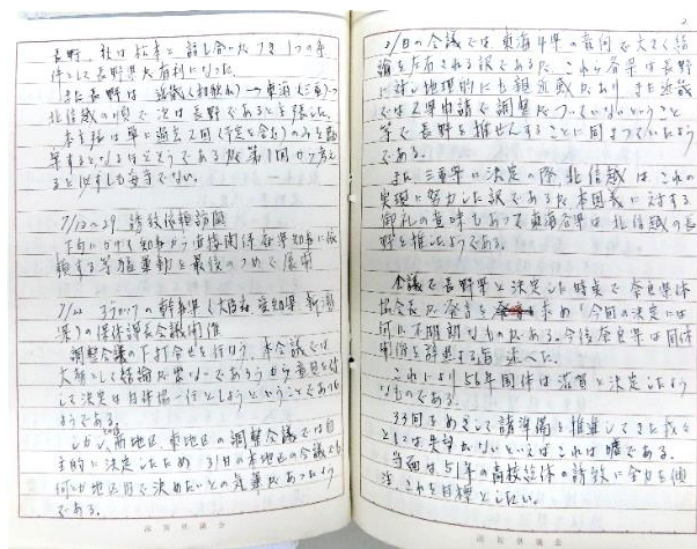


1-2「体育振興特別委員長報告」

昭和 46 年（1971 年）9 月

国体開催地は、昭和 38 年以降、全国を 3 つに分けた地域区分のうち、西、東、中の順に輪番で開催されることになっています（地域区分や順序の見直し、中止や延期によりこのとおりでない場合もあります。）。滋賀県は中地域に該当し、次の中地域での開催は昭和 50 年となったため、本県でもこの大会の誘致が進められました。国体誘致に関する調査研究を付託された体育振興特別委員会（昭和 46 年 5 月 10 日設置）は、前回敗れた要因を分析し、競技施設の整備や、抜本的な選手強化対策への対処が必要であると報告しています。

【令 3-3919（3）】

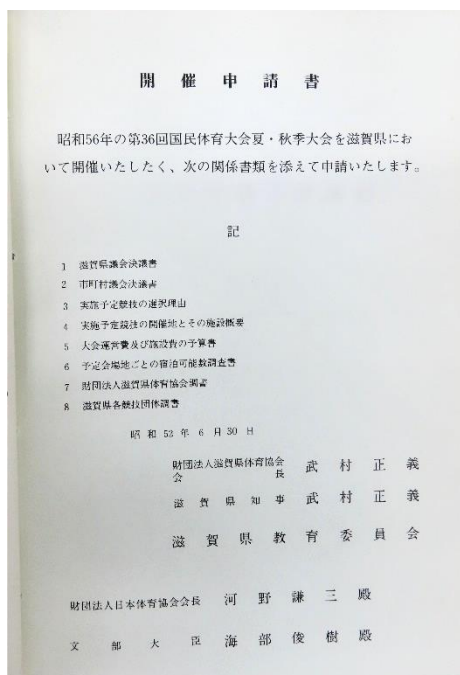


1-3「第 33 回国体開催地内定（長野県）に関する経過報告」

昭和 47 年（1972 年）8 月 10 日

本文書は体育振興特別委員会の議事録です。昭和 50 年国体誘致も叶わなかった本県が次に目指した昭和 53 年国体では、本県のほかに長野県、奈良県が申請していました。関係府県に対する働きかけが十分でなかったというこれまでの反省を活かし、知事から直接中地域の府県知事に本県を推薦するよう依頼するなど猛運動を展開しましたが、7 月 31 日に開催された中地区調整会議において長野県での開催が決定しました。

【令 3-3920（5）】



1-4「第 36 回 国民体育大会夏・秋季大会 開催申請書」

昭和 52 年（1977 年）6 月 30 日

昭和 56 年国体を滋賀県で開催するよう求める申請書です。県議会や市町村議会の決議書、実施予定競技の選択理由や開催地、予算書などが添えられており、頁数は全 151 頁におよびます。同年 8 月 25 日、日本体育協会において滋賀県開催が内定し、約 15 年越しの悲願が叶いました。

【県刊行物 340】（県民情報室所蔵）

第2章 滋賀県民総参加の国体準備



2-1 「びわこ国体県民運動」

昭和55年(1980年)11月30日

悲願の国体を109万の滋賀県民総参加で成功させようと、県民運動が展開されました。きれいな環境で温かく選手を迎えるため、ゴミ拾いや植物の植え付け、文化の振興や交通ルールを守るなど、大人から子供まで県民ひとりひとりが取り組み、まさに県民総参加の国体になりました。本資料は大会開催1年前に実施された県民運動推進大会の様子で、パレード等を通して県民みんなの力での国体成功を呼びかけました。

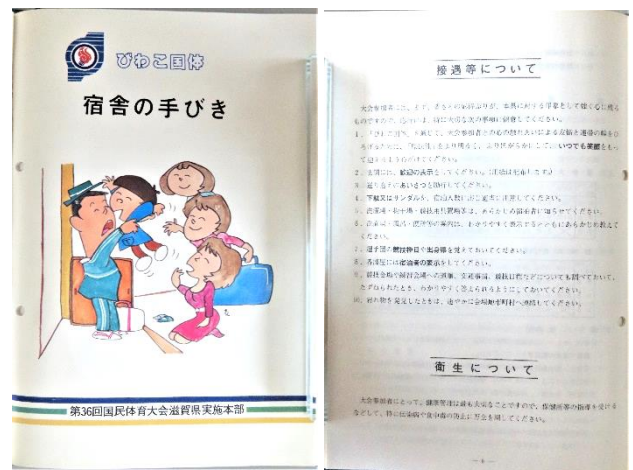
【県刊行物 567】(県民情報室所蔵)

2-2 「宿舎の手びき」

昭和56年(1981年)

びわこ国体では約4万人の選手・監督等が本県に宿泊したため、旅館が不足する地域においては公民館や寮、社寺、一般家庭(民泊)も活用されました。民泊は約2,000施設にのぼり、宿泊者は7,167人と国体史上最大の規模となりました。本資料は各施設に配布された「宿舎の手びき」で、宿泊者を迎えるうえで気を付ける点などがまとめられています。

【県刊行物 708】(県民情報室所蔵)



標準献立		標準献立	
夕食		朝食	
第4例		第5例	
お茶 お粥 お味噌汁 お漬物 お豆腐 お揚げ お肉 お魚 お野菜 お果物	お粥 お味噌汁 お漬物 お豆腐 お揚げ お肉 お魚 お野菜 お果物	お粥 お味噌汁 お漬物 お豆腐 お揚げ お肉 お魚 お野菜 お果物	お粥 お味噌汁 お漬物 お豆腐 お揚げ お肉 お魚 お野菜 お果物

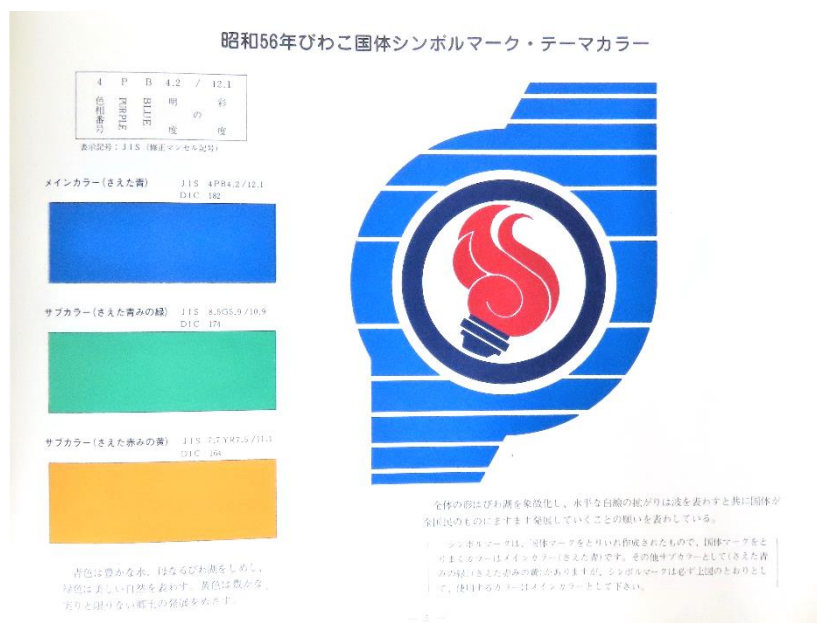
2-3 「びわこ国体の食事」

昭和56年(1981年)

大会中、すべての宿泊施設で統一的に料理ができるようにと、標準献立が作成されました。標準献立は栄養量が十分で、郷土色を加味し、民泊でも容易に調理ができるように配慮されたものとなっており、紅かぶらの漬物や鮎あめ煮、ごり佃煮など滋賀の郷土料理が組み込まれています。

【令3-3925(15)】

第 3 章 シンボルとメダルデザイン



3-1 「びわこ国体シンボルマーク」

昭和 53 年 (1978 年) 制定

びわこ国体のシンボルマークは公募により決定しました。全体の形はびわ湖を象徴化し、中心には国体マーク（昭和 22 年制定）が取り入れられています。メインカラーの青は豊かな水と母なるびわ湖をしめし、水平な白線の広がりは波と国体発展への願いを表しています。

【県刊行物 606】（県民情報室所蔵）

3-2 「第 36 回国民体育大会参加章・記念章」

昭和 55 年 (1980 年) 9 月決定

びわこ国体の参加章と記念章の図案です。デザインおよび原型の製作は本県出身の彫刻家・山田良定です。「こちよ自然の風が、やすらぎと明日への伸展を集う若人にささやき、語りかけてくれる姿」を表しており、黄銅（銀コーティング仕上）で作られました。参加章は役員や監督・選手へ、記念章は係員や補助員、炬火リレー走者などへ配られました。

【県刊行物 705】（県民情報室所蔵）



第4章 大会の様子

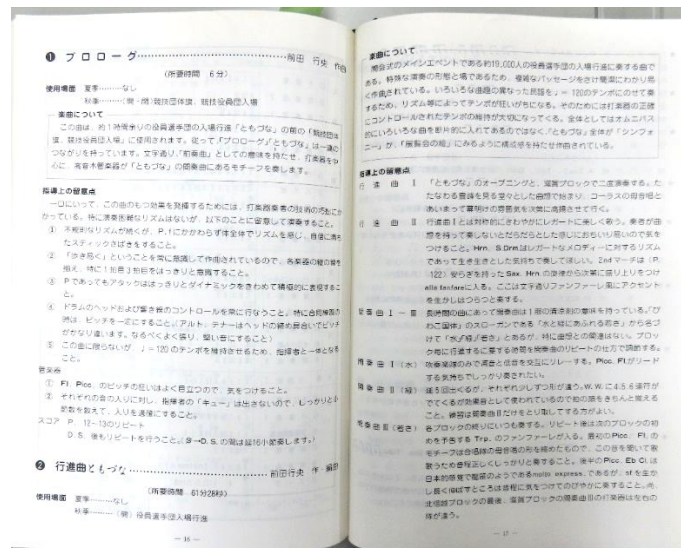


4-1 「記念切手を販売する移動郵便局」

昭和56年(1981年)10月

記念切手を販売する移動郵便局の写真です。第2回大会(昭和22年、石川県)から記念切手が発行されており、びわこ国体でも実施競技(バドミントン)をデザインした切手が発行されました。今年(今年)の大会でも、実施される競技や滋賀県ゆかりのものをデザインした切手が発行されます。

【県刊行物 706】(県民情報室所蔵)

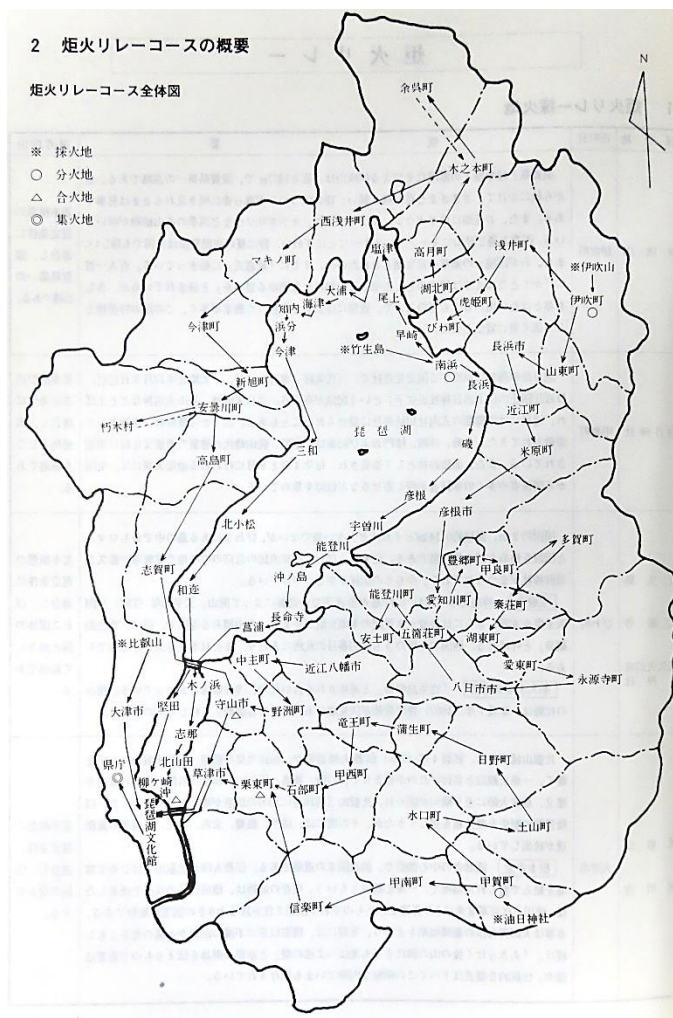


4-2 『びわこ国体式典音楽実施要領<指導編>』

昭和56年(1981年)4月

本文書は、式典音楽の指導に関する実施要領で、式典で使用する全曲に対して、指導上の留意点が記されています。県旗掲揚(開会式)、降納(閉会式)の際には古関裕而作曲の「滋賀県民の歌」が演奏されました。また、びわこ国体のために作られた「びわこ賛歌」は、開会式の選手宣誓後に合唱されました。約19,000人の選手団入場には「ともづな」という全国各地の民謡を組み込んだ行進曲が演奏されました。

【県刊行物 707】(県民情報室所蔵)



「開会式の様子」



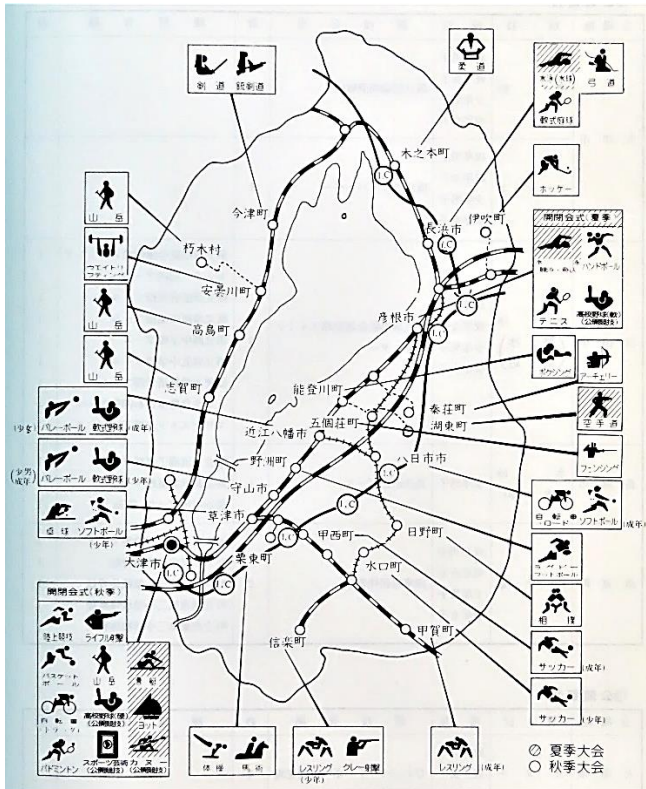
「各採火地でのようす」(左から、伊吹山、竹生島、比叡山、油日神社)

4-3「炬火(きょか)リレーコース全体図」

昭和56年(1981年)

炬火とはオリンピックの聖火にあたるものです。今年の大会では、県内各市町がおこした炬火をひとつに集めメイン会場に灯しますが、びわこ国体では、4か所で採火された炬火が県内全市町村と湖上をリレーでまわりました。各炬火は、伊吹山山頂では反射鏡を用いて太陽光線から、油日神社では火切り(摩擦によって火をおこす道具)で、比叡山延暦寺では不滅の法灯から、竹生島では法厳寺、都久夫須麻神社の灯明から採火されました。

【県刊行物 706】(県民情報室所蔵)



「湖上輸送の様子」 【県刊行物 706】（県民情報室所蔵）

4-4 「びわこ国体実施競技と会場」

昭和 56 年（1981 年）

びわこ国体の競技数は 36 と国体史上最大（当時）の規模で、その会場は県内各地に分散されました。選手は出場種目の会場付近に宿泊しましたが、開会式に参加するため総勢 19,300 人が大津市に集結することになります。周辺道路への影響を軽減するため、輸送はバス・列車・船舶に分散され、船舶は琵琶湖を利用した特色あるものとして特に選手団に好評でした。

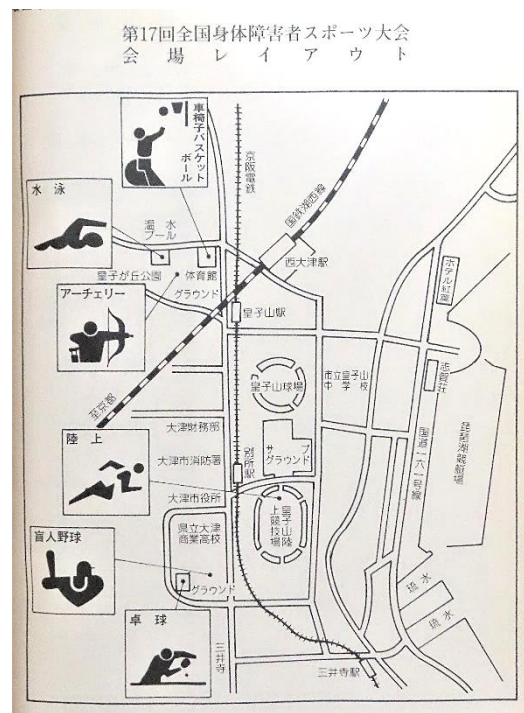
【県刊行物 709】（県民情報室所蔵）

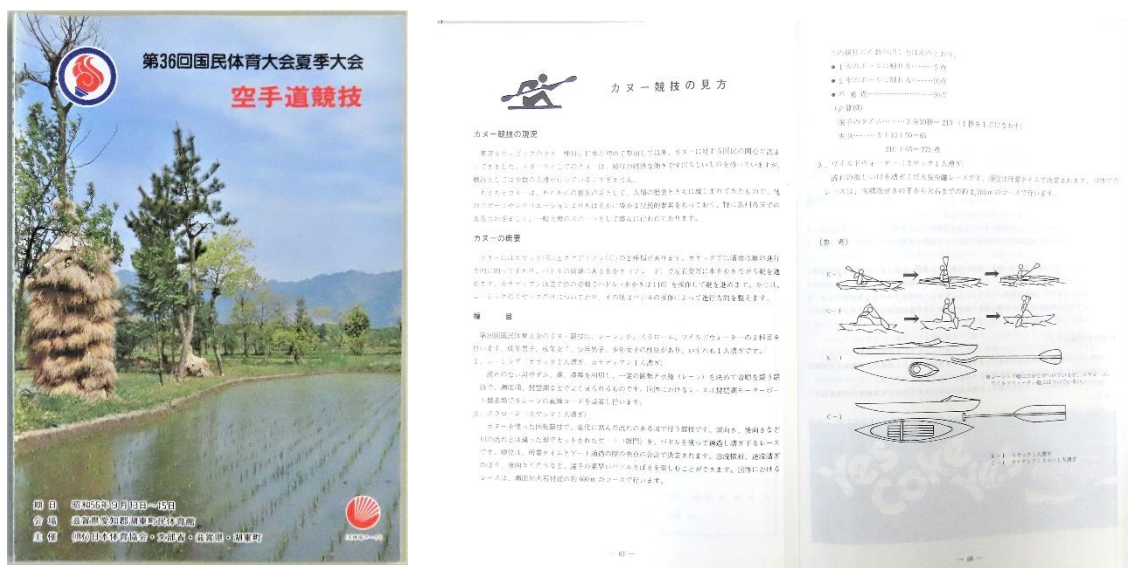
4-5 「びわこ大会実施競技と会場」

昭和 56 年（1981 年）

第 17 回全国身体障害者スポーツ大会（びわこ大会）は車椅子バスケットボール、水泳、アーチェリー、陸上、野球（グラウンドソフトボール）、卓球の 6 競技で、すべて皇子山陸上競技場周辺で行われました。

【県刊行物 716】（県民情報室所蔵）





4-6 「競技プログラム」

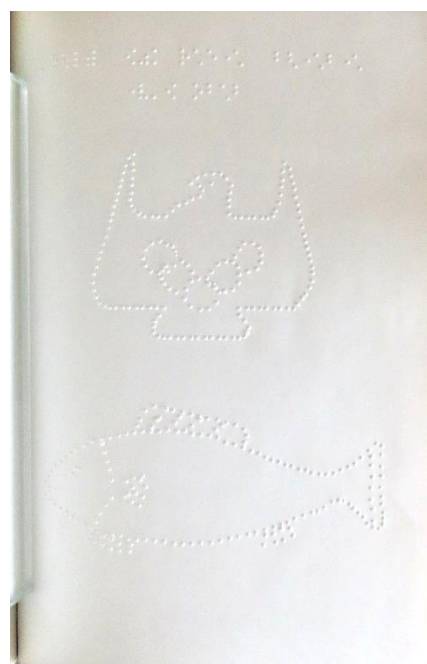
昭和56年(1981年)

夏季大会で実施されたカヌーと空手道のプログラムです。びわこ国体から、正式競技として空手道が、また順位に関係のない公開競技としてカヌーが加わりました。プログラムは競技ごとに作られ、組合せ表や採点方法、競技の見方などが掲載されています。

【令3-3926(5)】



活字版



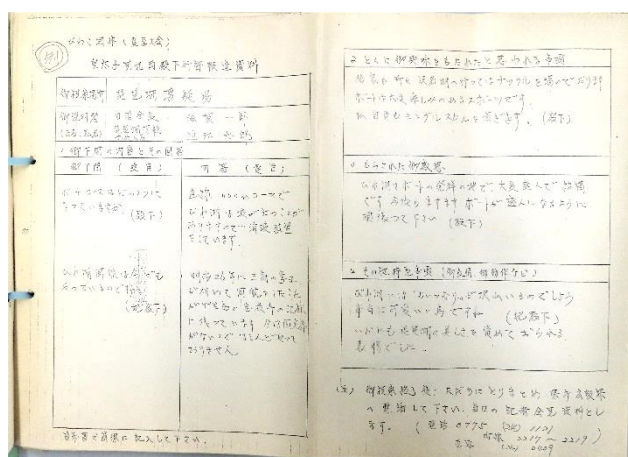
点字版

4-7 「びわこ大会プログラム」

昭和56年(1981年)

びわこ大会のプログラムです。活字版と点字版が作られました。点字版の1ページ目には、「わたしにもこんな力が生きがいが」と「びわこ大会」の点字の下に全国身体障害者スポーツ大会シンボルと魚のマークが打たれています。

【県刊行物714】(県民情報室所蔵)



4-8 「皇太子同妃殿下御視察狀況」

昭和 56 年 (1981 年) 9 月 15 日

びわこ国体では夏季に皇太子同妃両殿下が、秋季には天皇皇后両陛下が来場されています。本資料は両殿下の視察状況をまとめたものです。このページは琵琶湖漕艇場で漕艇（夏季大会正式競技）を視察されたときのものです。コースや琵琶湖周航、かいづりなどについて言及されています。

【令 4-216 (1)】

日本体育協全国大会

第36回国民体育大会 女 女 総合成績(天皇杯得点)一覧表 2-1

大会委員長 千葉 正樹 中川 孝 男

競技名	得点 合計	順位	スケ ート	アス ホッケー	スキ ー	水 泳	滑 艇	ヨ ット	空 手 道	陸 上 競技	サ ッカー	テ ニス	ホ ッケー	ボ クシング	バ レー ボール	体 操	バ ドミ ントン	レス リング	フ ット ボール
都道府県名																			
1 北海道	104	(10)	14.5	14.5	16	1	1	1	1	1	1	1	1	1	5	1	2	1	1
2 青森県	97.25	(11)	8.5	8.5	8	1	5.5	1	1	1	1	1	1	8.5	1	1.75	1	7	1
3 岩手県	78	(19)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	11.5	19	1	1	1	1	1	1
4 宮城県	41.6	(43)	1	6	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.6	1	1	1	1	1
5 秋田県	94.75	(12)	1	1	7	1	1	1	1	1	1	1	1	10	1	1	1	10	5.5
6 山形県	40	(44)	1	0	6	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
7 福島県	72	(21)	1	0	1	1	1	1	9.5	1	1	1	0	1	1	1	1	1	1
8 茨城県	90.5	(15)	1	1	1	1	1	1	1	16	1	1	1	1	1	1	1	12	1
9 栃木県	60.6	(27)	1	8.5	1	1	1	1	7	1.5	1	1	1	1.6	8.5	1	2	1	1
10 群馬県	107.91	(8)	6	1	1	1	1	1	4	1	5.5	1	1	5.5	1	11.41	1	6	7
11 埼玉県	121.5	(5)	9.5	1	1	1	6	1	16	7.5	1	1	1	1	1	1	2	1	13
12 千葉県	111.5	(7)	1	1	8	1	1	1	5	1.5	5	1	1	7	7	5	5	1	1
13 東京都	219	(2)	6	14.5	5	14	11.5	1	9.5	1	1.5	13	1	1	7	1	8.5	6	10
14 神奈川県	111.66	(6)	1	6	1	1	1	4.5	1	1	9	1	1	1	1	10.66	1	1	1
15 新潟県	58.5	(28)	9	6	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	1	1	1	1
16 富山県	54	(32)	1	1	9	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
17 石川県	92.5	(13)	11.5	2.5	13	1	7	1	1	1	1	1	1	1	4	1	1	1	1
18 福井県	55.25	(33)	1	0	1	1	1	1	1	1	1	8.75	1	1	1	1	1	1	1
19 山梨県	48.5	(34)	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	1	1	1	1
20 長野県	58	(29)	1	0	1	1	5.5	1	1	1	1	1	1	1	5	1	1	1	1
21 岐阜県	106	(9)	1	1	4	1	1	1	13	1.5	1	1	1	8.5	1	1	1	1	1
22 静岡県	92	(14)	6.5	1	1	6	9	1	1	1	1	1	1	1	1	1	6.5	1	1
23 愛知県	86	(30)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
24 三重県	71.25	(23)	1	1	1	1	8	10	1	1	1	1	1	15.25	1	1	1	1	1
25 滋賀県	357.51	(1)	1	1	1	7.5	17.5	13	8	9	1	9.75	1.6	16	13.66	16	11.5	1	1
26 京都府	78	(19)	1	1	1	1	1	11.5	8.5	1	7.5	5	1	1	1	8	1	1	1
27 大阪府	171.5	(3)	1	1	4	11	5	1	5	5	1	5	1	1	11.5	7.5	11.5	1	1
28 兵庫県	81.5	(18)	1	1	1	1	1	1	11	1	1	9.5	0	1	1	1	10	1	11.5
29 奈良県	43.5	(39)	0	0	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
30 和歌山県	86	(17)	1	1	1	1	1	4.5	7.5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
31 鳥取県	43.5	(38)	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	5.5
32 島根県	47	(36)	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
33 広島県	55	(31)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
34 岡山県	71.5	(22)	1	2.5	1	6.5	1	1	1	1	1	1	1	1	9	1	1	1	1
35 山口県	62.5	(25)	1	0	1	1	1	1	1	1	1.5	7	1	1	1	1	1	1	1
36 徳島県	42.5	(42)	1	0	1	1	0	1	1	1	1	4	1	1	1	1	1	1	1
37 香川県	43.75	(38)	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1
38 愛媛県	36	(45)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
39 高知県	32.5	(46)	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	1	1
40 福岡県	127.35	(4)	1	1	10	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0
41 佐賀県	43	(41)	1	0	1	1	1	1	1	1	1	14.5	1	1.6	1	1	6.5	1	1
42 長門県	44.5	(36)	1	1	0	1	1	1	1	1	1.5	1	1	1	1	1	1	1	1
43 大分県	68	(28)	1	1	1	1	1	1	1	1	13	1	1	1	1	1	1	1	1
44 熊本県	47.5	(37)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	5.5	1	1	1	1	1	1
45 鹿児島県	43.5	(39)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
46 沖縄県	90	(16)	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合計	31.6	(47)	1	0	0	1	0	1	1	1	1	1	1	7.75	7	4	1	8	1

4-9 「綜合成績一覽表（天皇杯）」

昭和 56 年 (1981 年) 10 月 18 日

びわこ国体の成績表です。本県は漕艇、ヨット、空手道、フェンシング、バドミントンなど 16 競技で 1 位となり、みごと天皇杯（男女総合優勝）を獲得しました。びわこ大会でも、個人競技（陸上・卓球・アーチェリー・水泳）の金メダル獲得数は 43 個と最も多く、野球でも優勝しました。

【令 3-3926 (8)】

第 5 章 わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ

5-1 「国体検討懇話会報告書」

平成 25 年（2013 年）1 月 7 日

昭和 63 年（1988 年）の京都国体から、開催地の持ち回りが 2 巡目に入りました。本県では平成 36 年の 2 巡目開催を想定し、平成 24 年、「国体検討懇話会」を設置し、時代の流れに沿った「滋賀らしい国体」のあり方について検討しました。本懇話会では「ジュニア部会」も設置され、将来国体にかかわる世代であることもや若者の意見も取り入れられました。

【県刊行物 2709】（県民情報室所蔵）

区分	開催日時・場所	協議内容
第 1 回	【期 日】平成 24 年 5 月 16 日（水） 15:00～17:00 【場 所】滋賀県庁新館 4 階 教育委員会室	【協議事項】 1 国体体育大会の概要について（事務局説明） 2 国体開催の意義・課題について
第 2 回	【期 日】平成 24 年 7 月 23 日（月） 13:30～16:00 【場 所】大津合同庁舎 7-A 会議室	【協議事項】 ・第 1 回懇話会の概要について ・ジュニア部会の設置について 【協議事項】 1 国体を開催する意義および、滋賀らしい国体の姿 ー時代の流れに沿った開催地と開催のあり方について 2 国体開催にあたっての課題について 3 海外観戦について
第 3 回	【期 日】平成 24 年 8 月 28 日（火） 13:00～15:00（観戦） 【場 所】長瀬県立三木総合防災公園	【協議事項】 1 施設概要・整備経緯説明 2 施設見学
第 4 回	【期 日】平成 24 年 10 月 29 日（月） 10:00～12:00 【場 所】大津合同庁舎 7-A 会議室	【報告事項】事務局説明 【協議事項】 ・国体の意義（滋賀らしい国体の姿、滋賀県民について） ・海外観戦・初年度の実施状況について ・県内各団体の参加状況について ・ジュニア部会活動と意見について 【協議事項】 国体を開催するにあたっての「課題」について ①地域振興 ②県民参加 ③人の育成 ④競技の普及・競技環境 ⑤その他
第 5 回	【期 日】平成 24 年 12 月 18 日（火） 14:00～15:30 【場 所】大津合同庁舎 7-A 会議室	【報告事項】 ・第 2 回懇話会の概要について 【協議事項】 国体検討懇話会 検討結果報告書（案）について

区分	開催日時・場所	活動内容
第 1 回	【期 日】平成 24 年 9 月 23 日（木） 10:00～13:00 【場 所】びわこ・びわ湖スポーツ大学	【内 容】 1 自己紹介および仲間づくり活動 （指導：びわこ・びわ湖スポーツ大学 教授 中野友輔氏） 2 国体について、県民参加について 3 びわ湖湖上体育館に案内して
第 2 回	【期 日】平成 24 年 10 月 7 日（日） 10:40～14:45（観戦） 【場 所】岐阜メモリアルセンター	【内 容】 1 観戦体験、体操競技の観戦および選手、スタッフ、ボランティア等への取材活動 2 意見交換
第 3 回	【期 日】平成 24 年 10 月 20 日（土） 10:00～12:00 【場 所】滋賀県庁新館 4 階 会議室	【内 容】 1 第 2 回活動の振り返り（事務局説明） 2 意見交換 3 まとめ



5-2 「キャッフィーイラスト下書き」

平成 19 年（2007 年）2 月 1 日

キャッフィーとチャッフィーは、琵琶湖の固有種である「ビワコオオナマズ」をモチーフにした今年の国スポ・障スポのマスコットキャラクターです。キャッフィーは平成 19 年に、チャッフィーは平成 29 年に公募により誕生しました。キャッフィーは当初「スポレク滋賀 2008」のマスコットキャラクターとして、総応募数 492 点の中から選ばれました。本資料は当時のイラストの下書きで、ラケットの角度など細やかな個所まで指示が書かれています。

【令 2-1383 (8)】

びわこ国体の写真

※特に記載にないものの出典は、『第 36 回国民体育大会報告書』【県刊行物 706】
第 36 開国民体育大会滋賀県実行委員会、昭和 57 年 3 月 10 日（県民情報室所蔵）です。



「標準献立の試食会」
昭和 55 年（1980 年）9 月 2 日
【県刊行物 567】（県民情報室所蔵）



「標準献立の講習会」
昭和 56 年（1981 年）



「民泊での夕食」
昭和 56 年（1981 年）



「横断幕を持って入場する滋賀県選手団（閉会式）」
昭和 56 年（1981 年）10 月 18 日



「総合優勝祝賀パレード」
昭和 56 年（1981 年）10 月 18 日頃

展示図録

びわこ国体・びわこ大会から、

わた SHIGA 輝く国スポ・障スポへ

令和 7 年（2025 年）8 月 25 日

編集・発行

滋賀県立公文書館

〒520-8577

滋賀県大津市京町四丁目 1 番 1 号

滋賀県庁新館 3 階

Tel : 077-528-3126 Fax : 077-528-4813

Mail : archives@pref.shiga.lg.jp



「炬火「滋賀の火」の点火」
昭和 56 年（1981 年）10 月 13 日